

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201034		
法人名	有限会社邦史会		
事業所名	グループホーム青の蓮		
所在地	栃木県足利市福居町843番地 (電話) 0284-72-0584		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月11日	評価確定日	平成21年12月14日

【情報提供票より】(平成21年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	10 11 人 10	常勤9人(うち兼務3人), 非常勤1人, 常勤換算6.6人 常勤8人(うち兼務3人), 非常勤3人, 常勤換算6.8人 常勤7人(うち兼務3人), 非常勤3人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	RC造り 5階建ての1~3階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代=実費、おむつ代=実費、管理費=実費、レクリエーション=実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(252,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	252 円	昼食 420 円
	夕食	294 円	おやつ 84 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年10月20日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	7 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 85.1 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	●医療法人社団邦史会うるしばら内科・皮膚科クリニック ●足利赤十字病院 ●医療法人杏林会 今井病院 ●医療法人恵愛会 青木病院 ●医療法人根岸会 足利富士見台病院 ●うるしばら歯科医院 ●医療法人 長崎病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの隣には公園があり、春には桜が咲き誇りホームから楽しむことができる。街中に比較的近い場所であり、利便性のよい立地となっている。居宅介護複合施設の1~3階が当ホームとなっており、有料老人ホームとデイサービスも併設されている。法人代表者は医療法人の理事長でもあり、市医師会の理事もしていることから協力医療機関が多いほか、月2回は往診がある上、日中は看護師が建物内に在在するなど医療的に手厚いホームである。方針として、医療的依存度が高い方であっても、できる限り受け入れることとしており、最期まで生活を支えながら看取りも行っている。小学生がプラスバンドコンサートをしに来てくれたり、近所の方とカラオケ大会を楽しむなどし、地域の方から「老人会のメンバーの一人として考えている」と言われるほど深い関係が構築されてきているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果の内容については、職員だけでなく運営推進会議でも報告を行った。その際、地域との関わりを見直しを行い、避難訓練については自治会長などの地域の協力もあり、地域住民と共に実施することができた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価と同様に、今回も全職員で取り組み、管理者がまとめて記入した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、メンバーは入居者、入居者家族、自治会長、町防災リーダー、民生委員、近所の神社の総代、市職員等と多岐に渡っている。家族より「敷居が高い」という意見が出され検討した結果、入り口の玄関を職員以外は開けられない扉のタイプのものから改善を行い、家族も自由に内側から扉が開けられる様になり、好評を得ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には、ホームから近況報告を行い、預かり金は出納帳で確認してもらっている。家族が他県に住んでおり、なかなか面会に来られない場合もあるため、毎月各ユニット毎に「たより」を発行し送付している。「たより」には、担当職員から個別にコメントを添えることで、家族に入居者の様子を伝えられるよう配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣にある小学校のプラスバンドがホームに来訪しコンサートを行う交流を行っている。また、幼稚園児を焼きいもパーティーに招いたり、入居者と唄や折り紙で楽しむ機会も設けている。また、老人会との交流もあり、ホームの建物内のフロアを提供して地域の方を招いたカラオケ大会を行っている。回覧板も届くようになっており、地域住民との付き合いは深くはなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時に職員で理念の検討を行い、入居者と関わる職員のあるべき姿や行動指針を集約して、「人・義・礼・知・信」を理念とした。例えば、「人」は「人を敬う」こと、「義」は「正義を全うする」ことを表している。	○	開設当初の様々な思いが詰まった素晴らしい理念を継続しながら、地域の一員としてのホームの理念や年度目標等の更なる検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念と共に企業理念も事務室に掲げ、朝の申し送り時に音読を実施している。また、ネームプレートに理念が書かれた用紙をはさむようにしており、いつでも確認ができるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣にある小学校のブラスバンドがホームに来訪しコンサートを行う交流を行っている。また、幼稚園児を焼きいもパーティーに招いたり、入居者と唄や折り紙で楽しむ機会も設けている。また、老人会との交流もあり、ホームの建物内のフロアを提供して地域の方を招いたカラオケ大会を行っている。回覧板も届くようになっており、地域住民との付き合いは深くなってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価と同様に、今回も全職員で取り組み、管理者がまとめて記入した。前回の外部評価結果の内容については、職員だけでなく運営推進会議でも報告を行った。その際、地域との関わりを見直しを行い、避難訓練については自治会長などの地域の協力もあり、地域住民と共に実施することができた。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、メンバーは入居者、入居者家族、自治会長、町防災リーダー、民生委員、近所の神社の総代、市職員等と多岐に渡っている。家族より「敷居が高い」という意見が出され検討した結果、入り口の玄関を職員以外は開けられない扉のタイプのものから改善を行い、家族も自由に内側から扉が開けられる様になり、好評を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席をお願いしており、毎回、出席してもらっている。また、市役所に行った際には、担当職員と話す機会を作り、連携しやすい関係が作れるよう努めている。	○	ホームとしても更に市との連携を深めていきたいと考えていることから、より積極的にアプローチを行い、市と共にホームの質の向上を目指していくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、ホームから近況報告を行い、預かり金は出納帳で確認してもらっている。家族が他県に住んでおり、なかなか面会に来れない場合もあるため、毎月各ユニット毎に「たより」を発行し送付している。「たより」には、担当職員から個別にコメントを添えることで、家族に入居者の様子を伝えられるよう配慮している。	○	「たより」による報告をより良くしていくために、例えば年1回は3ユニット合同での「たより」を作成し、ホームの行事や入居者の写真を入れたり、職員紹介や異動の報告を写真入りで掲載する等、広報誌の内容について検討することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の受付については、重要事項説明書にホームの窓口、市、国保連、運営適正化委員会の連絡先を明記している。また意見箱も設置しているが、直接、職員に要望等を伝えてくる状況となっている。ホームでは、気兼ねなく意見や要望を言えるよう、職員が入居者及び家族との良好な信頼関係を築けるよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームと同じ建物内に有料老人ホーム、デイサービスセンターがあるが、施設長は入居者への影響を第一に考えており、異動は最小限に留める事を方針としている。職員は、担当のユニットが違っていてもユニット間を行き来したり、特浴の際に協力することで事業所全体で入居者と職員の顔馴染みの関係ができやすくなっている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに各ユニットのリーダーが年間の内部研修の内容（感染防止、ターミナル、認知症ケア等）を決め、持ち回りで資料を用意し、時間外に内部研修を年5回以上行っている。勤務の関係などで出席できない職員も学べるように資料を渡し、伝達講習を行っている。また、外部研修について管理者は、職員を積極的に参加させるよう考えており、研修の案内は全職員へ回覧で周知させており、年1回程度は職員全員が参加できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。以前、管理者が居宅介護事業所でケアマネジャーをしていた事から、定期的に他ホームの管理者との食事会等により情報交換を行っている他、他法人のケアマネジャーからケース相談を受け、貢献した事例もある。	○	管理者同士の交流の場で、「他ホームとの交流を持っていきたい」という意見が出されていることから、管理者だけでなく職員間においても相互訪問や情報交換の機会を持つことに努め、同業者間での更なるネットワークの構築と交流の取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、ホームの見学を行い、生活のイメージがしやすい様に配慮している。また、入居後は、ホームでの生活について入居者本人と話し合ったり、他入居者を紹介しながら徐々にホームの雰囲気に馴染めるように配慮している。ホームの方針として、持病を持っていたり、車椅子等を使用していてもできるだけ入居の要望に応えるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の配膳、後片付け、テーブル拭き、洗濯たたみなど入居者のできることに配慮しながら、職員と一緒にしている。訪問時にも、職員と会話しながらりんごの皮むきを行っている場面が見られた他、入居者から、お客様に対する気遣い（お茶だしのタイミングなど）を指摘され、職員の気づきとなるなど共に学んだり、支え合う関係となっている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他、入居者との日常会話や意思表示が難しい場合には表情や行動から思いをくみ取り、更には家族からの情報を取り入れ、本人の思いを把握できるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたって、本人の意向は日々の関わりの中で把握し、家族の意向は面会時に聞くように努めている。月1回カンファレンスの時間を設け、職員の意見だけでなく、医療関係者等の意見も反映させながら検討を行い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回、面会時に家族とモニタリングを行う様にしており、面会が難しい場合は郵送にてやり取りを行っている。介護計画の見直しは基本的には1年に1回行っている。月1回のカンファレンスのほか、ホーム独自で介護実施表を作成し、問題点が挙げれば介護計画を見直す様にしていく。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、日中はホームの建物内に看護師が常駐し、点滴や傷の処置ができる体制となっている。ホームの建物内にあるデイサービスの機械浴を利用し、入浴に支障があった入居者も快適に入浴が行えるようになっている。また、デイサービスのレクリエーションに本人の希望で参加することもある。		

グループホーム青の蓮


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の代表者は医療法人の理事長で医師でもあり、月に2回は往診が受けられるようになっている。かかりつけ医の通院については、家族の送迎が基本となっているが、日頃の様子を医師に伝える必要がある場合は、職員が同行を行い適切な医療が受けられるよう工夫している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的なケアが高い入居者でも、できる限りホームでの生活を支えることを方針としており、今までも多くの入居者の看取りを行っている。「看取り看護に対する指針」を重要事項説明書に入れており、家族等にも説明を行い同意をもらっている。緊急時の対応についての意向も書面にして、必要に応じて医師や看護師も交えた話し合いを行い、方針を共有するようにしている。家族の希望によっては、居室での寝泊りも受け入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報等の書類については、各ユニットの事務室内で保管している。理念に「人を敬う」ことを掲げていることを意識しており、入居者に対しては、必ず「姓」か「さん付け」で呼ぶようにしており、本人の希望があっても敢えて愛称で呼ぶことはしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事と入浴の時間はある程度決めているが、基本的には本人の希望する流れで生活している。自室で過ごす方や共有スペースでテレビや新聞を観たり、近くの神社に散歩に出かけたり、屋上で日光浴をする等、各々が自分のペースで過ごしている。本人の希望により、日中は自宅に戻って過ごし、夕食前にホームに戻る生活をしている入居者もいる。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニット毎に献立を決めており、買出しから調理まで各々で行っている。調理場も各ユニット毎にあり、共有スペースと一体化しており、音や匂いも感じられるようになっている。食材の買出しに入居者と出掛けたり、調理の一部分を一緒に行ったり等、食事が楽しめるように工夫している。また、入居者から外食の希望があると、らーめん屋やすし屋等にでかけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者には毎日入浴の希望を聞きながら入浴の支援を行っている。最低でも週2回は入浴してもらえよう、声かけを行っている。ホームの建物内にあるデイサービスセンターの特浴においても週2回は行えるよう、各ユニットの職員が協力している。入居者9名に対し特浴7名で、一般浴でも介助者2名が必要な方もいる状況であるが、入浴が楽しく安全であるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることを考慮し、食材の皮むきやテーブル拭き、洗濯物たたみやゴミ捨てなどを職員と共にし、感謝の言葉を意識して伝えるようにしている。唄が好きな入居者が多いため、好きな曲をフロアに流したり、クリスマス会などに合唱の機会を設けて楽しみごとや目標となるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節・天気のよい時には、近くの公園や神社に散歩に出かけている。また、本人の希望によりコンビニエンスストアやホームセンターに行ったり、化粧品の購入等、職員は入居者の外出を支援している。また、通院に職員が同行した際、帰りに好きなお店で外食をしてくることもある。	○	個別の外出支援はできる限り対応するよう配慮されている。しかし、入居者の高齢・重度化に伴い、全体外出や外出レクが難しい現状ではあるが、身体レベルが重度化しても外出の楽しみを作り出せるよう、更に検討していくことを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口は自動ドアとなっている。夜間は施錠してあるが、日中は、手動で開閉が出来るようになっており、出入りがあるとセンサーで音が鳴るようになっている。玄関の入り口は、以前は職員以外は開閉の出来ない作りであったが、家族からの意見により改善されている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施しており、消防署員にも立会いをお願いしている。今回、運営推進会議の場を利用して自治会長からの協力も得ることができ、回覧にて地域住民に避難訓練への協力をお願いして、実現することができた。また、職員の災害時の担当もきちんと取り決めをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は日誌に記録し、確認できるようにしている。入居者個々の状態に応じて、刻み食なども提供できるように工夫しており、栄養がバランスよく摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、定期的な換気を心がけ、心地よい空気が入るよう配慮している。テレビの前にはソファが置かれ、リラックスして鑑賞できるようにしているが、状況に応じてテーブルやソファの移動を行い、居心地よい空間となるように工夫している。壁には絵画や行事の写真、手作りの作品等が飾られている。居間等は日当たりが良いので、西日が気になる時にはカーテンで調整するよう、配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室への家具等の持込みは自由となっており、仏壇やテレビ、コタツなどを自宅から持ち込んでいる入居者もいる。また、家族の写真や表彰状を飾っていたり、趣味の琴を持ち込んで楽しんでいる入居者も見られた。居室は洋間の造りとなっているが、畳を好まれる方は畳を持ち込んでいる入居者もおり、本人が居心地良く過ごせる支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。